

SSKR まうんてんえこお NO.315

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
<http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/>

山彦作業所（就労継続支援B型）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
Email: ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

山彦相談支援事業所（相談支援）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX(03)3970-2365
Email: ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

やまびこ第二作業所（就労継続支援B型）

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL(03)6904-3411 FAX(03)6904-3413
Email: ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所（相談支援）

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL&FAX(03)6906-9803
Email: ymbk2-soudan@xvb.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井（就労継続支援B型）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812
Email: yamabiko@shakujii-work.jp

チャレンジワークやまびこ（就労移行支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865
Email: challenge@shakujii-work.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所（相談支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650
Email: soudan@shakujii-work.jp

やまびこ三原荘（共同生活援助）

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320
Email: miharaso@mue.biglobe.ne.jp

目次

表紙	山彦作業所
P2	山彦・第二 近況
P3	ワーク・チャレンジ 近況
P4	三原荘・相談 近況
P5	やまびこのペン（職員より）
P6~7	長期入院について
P8	やまびこのかぜ（メンバー）



↑⇒カラオケ組 in 富士見台カラオケBOX



山彦作業所 プチ納涼祭



⇐スイーツ・ジョナサン組 in 富士見台ジョナサン

8月4日に山彦作業所でプチ納涼祭を行いました。2ページ目に続きます

山彦作業所 近況

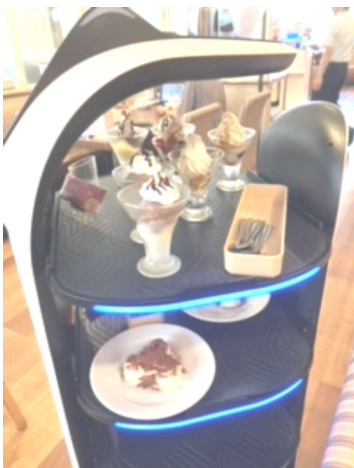
8月4日（金）にプチ納涼祭を行いました。利用者の希望に添って「ジョナサンへスイーツを食べに行こう」「カラオケBOXに行って歌おう」の2つに分かれて行ってきました。皆楽しみにしていたので、欠席なしの参加率100%となりました。表紙にも写真を載せました。

カラオケ組は、コロナでなかなかできなかったもので、みんな大興奮。ノリノリで自慢の歌を披露していました。世代がわかる古い歌や、高校を卒業したばかりの若者達の歌など生き生きと歌っている表情が久しぶりに見られたのでとても楽しかったです。



もう一つのスイーツ組は富士見台のジョナサンまで歩いて行き、事前に選んでいた美味しそうなスイーツを頼張ってきました。普段作業所の給食では出ないパフェやパンケーキ

など：給食を食べた後でもみんなペロリと完食していました。それよりも、びっくりしていたのは運んでくるのが店員さんではなくロボット？だったことだそうです。ファミレスにも身近なものではありませんが、みんなにとってはとても新鮮だったように感じます。スイーツ組は所内に戻ってきてから輪投げゲームも楽しみました。盛り上がりすぎて写真がないのが残念ですが、どちらも大満足の時間となりました。（村上）



⇒
ロボットが自動で料理を運んできました。

やまびこ第二作業所 近況

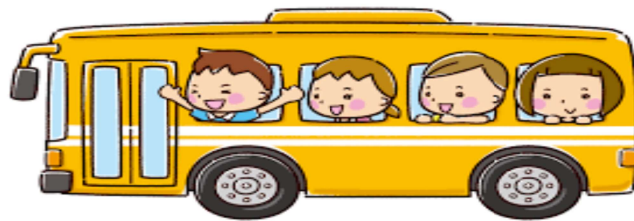
バスレク、嬉しいなあ

10月27日（金）。今日は、バスレクの行き先の投票が行われました。行き先は群馬方面です。候補地を3つに絞り、

その3つの中から投票で決めるやり方なのですが、開票もまた楽しいものでした。

20年1月の東京スカイツリーに行つて以来となりませんが、その後すぐにコロナ禍となつたので、考えてみるとおよそ4年ぶりです。それ以降に作業所に入られた方は、初めてのバスレクになります。ですの、現在、所内はバスレクのことで持ちきりです。今まで関心を示さなかった人も、

今回は違うようで、それぞれが参加を考えているようなので、一緒に行けたら良いなあと思ひます。この315号が発行された頃には、バスレクも終わっているの、次号には報告できます。まだコロナ禍にいるために、



バスレクは慎重に行わないといけません。周りの事業所を見ると少しずつ日常の活動を取り戻した、行事で感染が爆発した等の話を耳にすることがあります。ですの、今回のバスレクに対しては感染防止の徹底が必要です。コロナだけではなくインフルエンザが猛威を振るっているためです。いつもなら慎重過ぎて、決して無理をしないスタンスの当作業所なのですが、もうバスレクへの思いは止められない・・・そんな風に思っています。

下請け作業等の仕事は、職員が指示することが多くて、どちらかというと指示をする側とされる側と分かれてしまいがちですが、レクは目線が同じなことが多くに思ひます。レクを通してメンバー同士の理解や、または職員との関係も取りやすくなるのかも知れません。11月17日（金）がバスレクの日です。

ワークシヨップ石神井 近況

練馬まつり

行こうよまつり



ワークシヨップ石神井では、コロナの影響もあり、バザーや日帰りバスツアーなどの行事は、今年も開催が難しい状態です。そんな中、安全に配慮しながら少しでも楽しいことを、との考えから今年は小規模なレクを何回か行っています。

その一つとして、10月15日(日)に、練馬まつりに行ってきました。メンバー7名、職員2名が参加しました。

当日はなんと朝から大雨でしたが、お祭りは決行。私たちも傘をさし、いざ会場へ。練馬まつりは近くの公園や小学校・中学校等いくつかの会場があり、そこへ向かう道にもキッチンカーや出店が出ていて、とても規模の大きいお祭りでした。

たくさんのお店や体験コーナーなどをゆくり見て歩きたかったのですが、何しろ大雨なので私たちは食べ物にターゲットを絞りました。焼きそば、たこ焼き、スイーツや水餃子なんてのもありました。どれも美味しそうですが雨でベンチはびしょ濡れ、傘をさしたまま立ち食いとなってしまうため、残念ですがお昼ご飯

はお持ち帰りすることにしました。

それでもせっかくのお祭りですから何か食べたいと考え、片手で食べられるフランクやお団子、好きな方を選んで食べることにしました。ぬかるんだ校庭で、雨の中傘をさしたままの立ち食いでしたが、焼きたてのお団子やフランクは、何だか普通に食べるより美味しい気がしました。

小腹が満たされた後は、お昼ご飯を選び。色々なお店がありましたがお祭りと言えば、たこ焼きと焼きそば。ということ、好きな方を選んでもらいお持ち帰りとなりました。

あいにくの天気ではありませんでしたが、たくさんのお店を見るだけでワクワクし、美味しいものを食べ、普段とは違うお祭り気分を味わえました。

メンバーの感想

- ・雨で大変だったけど楽しかった。
- ・お団子がおいしかった。
- ・色々な出店が出ていて楽しかった。
- ・会場が校庭だったので、足元がぬかるんでいたのが大変だった。
- ・食べ物がおいしかった。
- ・いい思い出ができた。
- ・みんなで行けたので楽しかった。
- ・雨で全部回れなかったのが残念だったけど、普段食べないものがあってよかった。(渡辺)



チャレンジワーク やまびこ 近況

支援ツールの導入

就労移行支援事業所では日々の訓練の中で就労に向けてプログラムを行っています。その中でチャレンジワークやまびこは「ワークサンプル幕張版」という支援ツールを導入しました。

これは、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センターが「職場適応促進のためのトータルパッケージ」の一つとして開発し、復職を目指す方や様々な障害のある方々への支援に活用されているものです。

具体的にはOA作業・事務作業・実務作業に大きく分かれており、その中から様々な作業を体験したり、職業生活に必要なスキルを学ぶことが出来ます。

今回、ワークサンプルを導入にあたり、赤い羽根共同募金を通じて三菱電機株式会社が行う社会貢献の一つである「三菱電機ソーシャルツ基金」のご支援で導入することが出来ました。



ピッキング作業の様子

後日、三菱電機株式会社の方の方と東京都共同募金会の方がチャレンジワークやまびこへいらつしやり、メンバーが行っているプログラムの様子を見学されました。

ワークサンプルでは作業を正確に行うことだけではなく、自分に合ったスピードで行えることや苦しい作業をうまくこなすために、必要な対処方法を身につけられ、作業の中でストレスや疲労との上手な付き合い方や本人に合った働き方を見つけることが出来ます。

プログラムの更なる充実でメンバーの皆さんの就労に向けた準備につながれば幸いです。

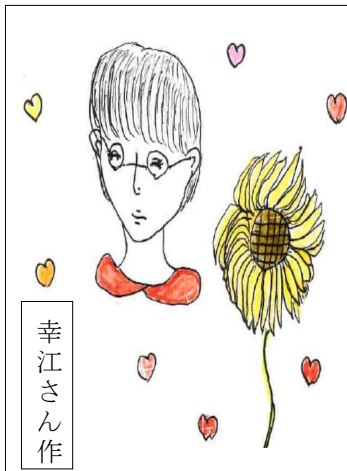
(高橋)

やまびこ三原荘 近況

8月と9月に三原荘の通過型（3年）の期限を迎え2名の方が次の生活の場へ移りました。三原荘を出る前に交流ノートにメッセージを残していつてくれたので紹介したいと思います。

幸江さん（仮名）

こんにちは。初めてノートに書きます。少し緊張しています。私は8月31日で三原荘を卒業して新しいグループホームに行きます。約3年間、本当にお世話になりました。世話人さんはじめ、職員のみなさま、入居者のみなさまに温かく見守られてどんなときも誰かが気にかけてくださり、「ああ、一人ぼっちじゃないんだと思いました。」これから先も縁を大切にしたい新しいグループホームでも頑張っていこうと思います。ありがとうございます。



幸江さんは、三原荘に来るまでは慣れ親しんだ家で生活をしていましたが、

両親が高齢になり病気になった兄との生活も難しくなった為、三原荘に入居されました。三原荘での生活は、はじめは慣れない日々が続いて苦労されたと思います。途中から作業所に通ったり、家族以外の人たちとたくさん関わりを持つことができ、今までにない経験をする事ができました。

敏夫さん（仮名）

3年間位、美味しい料理を作ってくれてありがとうございました。元気でこれからも頑張ってくださいね。体に気を付けて元気でいてください。寂しくなりますがお元気でいてください。

敏夫さんは、トランプやオセロが好きで交流室でみんなと一緒にやったり、迷路を描くのが得意でした。週末は大好きなお寿司を買いに行ったり、何よりも三原荘の食事サービスを楽しみにしていました。三原荘での生活を通して敏夫さんもたくさんの人と繋がりがや関係を持つことができました。

これから新しい生活が始まりますが、三原荘で過ごした思い出を心に持って、新天地でも自分らしくたくさん思い出を作って欲しいと思います。

（青柳）

相談支援事業所の近況

体制整備に向けて

相談支援事業所を開設してから10年になります。当初はそれぞれの地域に相談支援事業所が必要と考えて、富士見台・北町・石神井で運営していたB型事業所に併設し3箇所同時に相談支援事業所を開所しました。

相談支援専門員は各所に1名ずつしか配置できなかったため一人職場の危うさを常に感じていました。

新型コロナウイルスが5類に引き下げられ世間が通常の生活に戻り始めたころ、私はコロナに感染しました。過去に何度もインフルエンザに感染していますが、比べ物にならないほどコロナの症状は辛く回復までの期間もかかりました。

すでに入っていたスケジュールを変更させてもらったり、体調が優れない状態での支援で相手に気を遣わせてしまうなど迷惑をかけてしまいました。

利用者や事業者の状況を共有できる人がいて緊急時にフ

ローでできる体制作りは急務だと感じました。

法人内には相談支援専門員が複数いますが、現段階では3つの相談支援事業所は別々の事業所であるため制度的にフォロワーし合うことができない状況にあります。利用者・関係者の方々に迷惑をかけるためにも、この状況を改善しなくてはなりません。

この4月から山彦相談支援事業所では、2名体制で引継ぎを始めています。

3箇所の相談支援専門員の動きを互いに把握したり書式を揃えたりしながら、新しい体制づくりに向けて動き始めています。

法人内の事業所はどれもギリギリの人員配置で余裕がない状況ですが、知恵を絞って協力しながら安定した運営を目指しています。（上之原）



やまびいのかん

「花言葉」

ワークシヨップ石神井

大越 友明

みなさんは「シダーローズ」を知っていますか？

シダーローズとは、松ぼっくりの一種でヒマラヤ杉(マツ科)という樹木の実なんです。

名称に「ローズ」という言葉が入っている通り、バラに似ているのが特徴の松ぼっくりで、その形のきれいさから主にリースやアレンジメントの材料としても人気です。



シダーローズ

普段、お花や植物とはあまり縁のない生活を送っている私ですが、現在施設長を務めているワークシヨップ石神井で作成している自主製品でこの松ぼっくりと出会いました。

ワークシヨップ石神井では、ドライフラワーや木の実を使ったリースやアレンジメントを作り製品として販売しています。その材料の中でも一際輝いているのがシダーローズ。製品作成においても重要な役割を果たしてくれています。

製品作成を進める中でふとシダーローズについてネット検索していたところ、シダーローズの花言葉が目に入りました。

シダーローズには花言葉が二つあります。

1. たくましさ

2. あなたのために生きる

この花言葉を知った時、まず思い浮かんだことは「松ぼっくりなのに花言葉があるんだ」ということです。誰がどうやって松ぼっくりに花言葉を付けたのだろうという疑問はありますが、それよりも「たくま

しさ」「あなたのために生きる」という言葉に強く惹かれて元々きれいでいいなと思っていたシダーローズがより大切な物に思えてきました。

玄関に飾るリースには「大切な人がいつまでも無事に家に帰ってきますように」という意味もあるそうです。シダーローズを使用したリースを作ることによって、飾りつけが華やかになるだけではなく、このリースに関わってもらえた人々の生活自体がより豊かなものになってもらえたら幸いであると思いました。

このシダーローズに関する原稿を書いている時、私の誕生日が近かったこともあり、ふと思い立ち、「誕生日と誕生花」をグーグル検索してみました。すると私は「レオノチス」というシソ科の多年草が誕生花であることがわかりました。なんとなく誕生石みたいなのに誕生花みたいなのもあるんだろなという思い付きで調べたのですが、月だけでなく、日付までの誕生花が細かく決められていることを初めて知りました。誰がどうやって誕生花を設定したのだろう

という疑問は当然持ちましたが、それよりもレオノチスの花言葉に集中しました。



レオノチス

レオノチスの花言葉は、「雄大」でした。

今まで40年近く生きてきましたが、自分自身を振り返ってみても「雄大」という言葉があまり馴染みのないものでした。

しかし、この誰がどうやって設定したかわからない誕生花・花言葉であっても、今後「雄大」という言葉をテーマに生きていくことは、自分にとっても、自分の身近な人たちにとってもプラスになるのではと思いました。

長期・社会的入院者の方と関わって

地域の相談員とし病棟に訪問しました。長期・社会的入院者との関わりを通して、現在の福祉制度に對しても感じたことを以下にまとめました。

■長期・社会的入院について

精神障害者の長期入院・社会的入院(※)問題は大きな社会問題です。再三にわたって繰り返し返される精神科病院での事故・事件もこの問題に大きく関係しています。先日の滝山病院事件も大きく報道されているので、ご存じの方も多いと思います。ここでの詳細ははぶきますが、簡単に言うところ「治療ではなくて収容」が目的の制度設計になっているということと、日本の精神科病院の入院者数は、諸外国に比べて圧倒的に多いことが特徴的です。

その背景は、精神科病院を私立病院中心に進めてきたことや、社会防衛や近代化を急いだために社会の諸問題を病院に押し込めたこの国の施策が元となっています。他の病棟と比べても、患者数に對する医者や看護師の人数は少なく、良いことになっています(精神科特例)。その患者数は30万人近くとも言われています(社会的入院7万人とも言われています)。このような収容施策自体が、差別・偏見を助長しているとも言えます。

■病棟への訪問を通して

先日、長期・社会的入院の方たちに対して、地域紹介や退院への意欲を高める活動をされている「K事業所」のスタッフ・当事者と共に、Y病院に行かせてもらいました。K事業所は長年取り組まれているのですが、私は地域紹介

という課題で1時間ばかり時間をいただき、お話をしたり患者さんとやりとりをする機会を頂きました。

私は地域で出会った方たちの言葉やエピソードを中心に、話させていただきました。中でも作業所でメンバーの結婚披露宴をしたこと、退院して数年ぶりに故郷の両親のお墓参りに行けたメンバーの話、仕事、恋愛、友人、出産等々と、その時その時にメンバーが話していた言葉や、教えてもらったことを中心に話をしました。一言で言うところ「自由の中に人生があつた」と言っても良いと思いますし、硬くならないようにフリートク的なようになるように努めました。

■あの人は今、どうしているんだろう

相談の仕事に就いたときから、「いつか病院に行つて退院のお手伝いをしたい」との思いがありました。今までもスムーズに地元の病院とは連携もできていますし、何度か病棟にも気軽に入れたのですが、それは依頼があつた特定の方に対してのことだったの

対して訪問することはありませんでした。私が院内のことをよくは知らないのと同じで、病棟のスタッフも地域のことには知らないことがあるように思います。患者さんはじめ、スタッフの多くも願っている「退院」への働きかけや準備そしてその後の生活の体制等を一緒に考えたいと思っています。

私は、ワークショップ石神井や三原荘、やまびこ第二作業所、相談支援事業所と仕事をしてきました。この間、辞められて会えなくなったメンバーも少なくありません。「今はどうしているんだろう...」と思うこともしばしばです。ただ現在の相談支援は、作業所を辞めた後の生活に関わることもあります。相談支援の仕事をやつて視野が広がったと感じられることでもありません。しかし、それはあくまで地域で生活していれば...の話です。今の私のフィードはあくまで地域だからです。

(※)社会的入院・・・入院の必要性がないにも関わらず生活上などの都合により長期の入院生活を続けている状態。

■街・地域の風を

今回の病棟への訪問で、私は以前関わっていた2名の方と会えることができました。久しぶりに言葉を交わすことが出来たのですが、その方は「まだ作業所に通いたくない」「次に退院する時は、私が亡くなった時かな」等々の言葉を聞くと、言い表せないような辛く切ない思いになりました。

昔のようを思い出しては、話しかけてくる方もいました。何となく気持ちがかかるような気がします。私事なのですが、数年前に私も体調を壊し、入退院や手術を何度も繰り返したことがあります。身体だけではなく気持ちも乱れていました。そんな時に家族以外の人がお見舞いに来ると、喜びもまた格別だったことが思い出されます。何かどこかつながっている安心感や、一緒に仕事をしていた自分を思い出すことができたのです。人と社会とつながっている安心感のようにも感じています。

■何ができていますか

同じように、その2名の方とも関わって行きたい気持ちを持っています。例えば、現在、関わっている人がいつか入院しているかも知れませんが、そんな時に、地域で元気に暮らしていた時のその人を知っている支援者・相談員が、病棟に出入りしている。それは大きな安心感を伝えられる。そのような気がするからです。辛さや困難さは比べようもありませんが、私も自分自身で、あの時の自身の辛さや喜びをなぞっているのかも知れません。入院されている方に対して「地域の街の空気を運んでくる人」と思ってもらいたい。そんな思いでこれからも、訪問活動に関わらせていただきたいと考えています。

■地域の中で

精神症・障害があると、病気を受け入れて「自身の障害で上手に付き合うのに長い時間を要する方も少なくありません。そして長い時間をかけて退院が来て地域での暮らしが始まる方もいます。そのときはもう40代半ばを超えている人も珍

しくありません。それからまた体調を崩し病院に戻る方もいます。地域で暮らした期間が15～20年・・・その方にとっては、地域で暮らせていたその期間は忘れられない大切な思い出になっているようです。楽しい思い出だけではなく、辛い思い出も含めて、よく覚えておくようにして。就労に失敗しても、人間関係でつまづいても、「それも自分の人生だと思える」ことが何よりも尊いことを教えてくれたりもします。

■福祉制度のゆがみ

今の福祉制度は「就労」を主軸に行われていますが、それが合わない方もたくさんいることも事実です。また工賃額で運営費が決まるという歪な制度の中にいます。そんな制度の中でこそ、「人生の再スタート」「仕切り直し」「かけがえのない人生」そのような大きな意味でのリハビリの視点が何より大切な考えです。これらの考え方は残念ながら共同作業所の時代の方が強かったと思います。どこかで道を間違えてしまった

ように思えてなりません。同時に支援者も随分と変わったように思います。自立支援法（現：総合支援法）以降、どこも就労や工賃増額、出席率に追われて、行事・レクが圧倒的に少なくなっています。それは一口大鍋で拍車がかかっています。

■最後に

病院だけの問題ではなくて、同じことが障害福祉制度にも言えます。長期・社会的入院者との関わりは自分たちの仕事を見直す上でもとても大切に感じています。そして、すべては過度な効率・競争原理を導入した国全体の問題だと考えます。



やまびこのかぜ

以下の文章は、インタビューで聞き取ったものを文章に起こしたものです。（編集員）

”ありがとう、”

幸せをおすそわけ（やまびこ第二）

付き合い始めて1年ほどたちました。お話をしている中で、「趣味が合うかなあ・・・」と感じて、私の方から手紙を出したんです。もちろん当初はお友達としてからですが、何回か二人で会うようになって、それで彼女の方から気持ちを打ち明けられました。私も自分の気持ちを整理する時間をつくって、電話で「そばにさせてください」と返事をしました。

デートは、お花や自然を観に行くことが多いです。デートも楽しいのですが、毎日の連絡がとてもうれしいです。電話は長い時だと2時間はかけています。

好きな人がいて、その人に好かれていると感じると、とても安心感がもてます。心によりどころを与えてくれる大切な存在です。私が彼女のどこが好きかと言うと、目標を持って努力をしているところ、妥協をせず、物事に熱心な姿にとても尊敬しています。そのような彼女から、「好きだよ」と言ってもらえるとうれしいんです。

今まで一番印象に残っているのは、春に光が丘公園にピクニックに行ったことです。お弁当も作ってくれたのですが、今でもお弁当の中身をハッキリと覚えていいます。おにぎり、卵焼き、人参の味噌炒め、ブロッコリーのごま和え、ミニトマト・・・特に唐揚げは今まで食べた中で圧倒的に美味しかったです。私が苦手なニンニクは抜いてくれていました。おかずの感想を伝えたのですが、そのことは彼女もうれしかったようです。

ただ、おにぎりの形がいびつだったんです。おかずよりも後に作ったような気がしたんです。お化粧や服装選びに時間がかかって慌てて作ったような・・・そんな心の揺らぎが見えたような気がして、そのことを伝えてみたんです。したら「なんで分かったの!」とビックリしていました。分かってくれたことが嬉しかったようでした。

お付き合いをする中で改めて気がつくことがありました。家族、友人、身の回りのものに対して、常に感謝する気持ちが大切だということです。1日1回でも気持ちの良い「ありがとう」と伝えることは、相手からの「ありがとう」が大きくなって返ってくるように思えるようになります。他にも「かわいい」「きれい」等のポジティブな言葉も同じだと思います。目の前にいる人は、いつまでもいる訳ではないので、人生において後悔がないように、感謝の気持ちを言葉にして、恥ずかしがらずに気持ちは伝えた方がいいように思っています。今までの、何度いろいろな別れを経験したのですが、後悔とくやしいおもいばかりだったから・・・。

この文章が、「まうんてんえこお」に載ることは彼女に伝えてあるんです。そしたら笑顔で「私たちは誰も近寄れないくらい熱々だから伝えて」と、話してくれました。

心から感謝の想いを贈ります。ありがとう、”と・・・。



編集後記

第二では約4年振りのバスレクが実施予定で、参加者の多さにびっくり。作業所内の雰囲気も心なしか華やかです。（小泉）

編集人

社会福祉法人
練馬山彦福祉会

東京都練馬区
富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023

発行人

障害者定期刊行物協会

東京都世田谷区
祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ102号室